きょうとシネマクラブ

［特集］女性と映画

Kyoto Cinema + Gucchi's Free School Presents

KYOTO CINEMA CLUB VOL. 1

2023
12.8 fri — 12.14 thu
『ラブレス』
監督：キャスリン・ビグロー
モンティ・モンゴメリー

2024
1.5 fri — 1.11 thu
『青春がいっぱい』
監督：アイダ・ルピノ

2024.2月予定
『ガールフレンド』
監督：クローディア・ウェイル

2024.3月予定
『天使の復讐』
監督：アベル・フェラーラ

京都シネマ KYOTO CINEMA

GFS Gucchi's Free School

Girlfriends © 1978 WBEI. For press/media use - please use one of the below credits: Long: © 1966 Columbia Pictures Industries, Inc. All Rights Reserved., Images Courtesy of Park Circus/Exclusive Media Limited © 1978 Warner Bros. Entertainment Inc. All rights reserved. Short: © 1978 WBEI. MS 45 © 1981 WBEI The Trouble With Angels

Kyoto Cinema + Gucchi's Free School Presents

KYOTO CINEMA CLUB VOL. 1

京都シネマ KYOTOCINEMA

GFS Gucchi's Free School

［特集］ 女性と映画

知名度が低い映画や小規模な作品は、その内容のすばらしさにかかわらず、上映される機会がだんだんと減っています。そんな悔しい状況のなかで、なんとか映画を上映したいという思いから、映画館の個性を生かした独自のプログラムとミニシアターならではのチャレンジングな企画を始めようと思い立ち、「きょうとシネマクラブ」を発足しました。

京都シネマとグッチーズ・フリースクールが月イチ（予定）で、規模や知名度、新作、旧作にこだわらず、いまこそ見たい映画作品を上映。これまであまり語られることのなかった、あるいは途切れてしまった映画の可能性をたのしく考えていく、そんなシネマクラブを目指します！それではみなさん、京都シネマでお会いしましょう！

『ラブレス』 劇場初公開

The Loveless

劇場初公開！
キャスリン・ビグローの衝撃的デビュー作！

監督：キャスリン・ビグロー／モンティ・モンゴメリー

1959年のアメリカ南部の田舎町。刑務所あがりの流れ者のヴァンス（ウィレム・デフォー）は刑務所で知り合ったバイク乗りの仲間たちとバイクレースに向かおうとするが、仲間のバイクが故障してしまう。ダイナーで居合わせた地元客のガレージを借り、バイクが直るまで町で足止めを食うヴァンスたち。暇を持て余していた彼らの前に、赤いコルベットに乗った、顔に傷のある少女テレナ（マリン・カンター）が現れる。ヴァンスは酒を買いに行くと言い、テレナをドライブに誘い出すが……。ヴァンスたちの行動が、退屈な町の普通の一日を一変させていく。

作品解説 キャスリン・ビグロー監督の長編映画デビュー作で、低予算のインディペンデント作品。1959年のアメリカ南部の閉鎖的な田舎町を舞台に、突然現れたヴァンスたちという異分子が、住民たちの平凡な日常に不穏な緊張感を漂わせていく様子が描かれる。本作は主人公ヴァンスを演じるウィレム・デフォーのデビュー作でもある。不良バイカー集団のリーダーとして強い男性像を演じながら、内面の動揺を繊細に演じた。凶暴性と繊細さを合わせ持ち、独特の色気を放つ（悪としての）キャラクターはその後のウィレム・デフォーの代表的な特徴の一つとなり、『ストリート・オブ・ファイヤー』（1984）や『L.A.大捜査線／狼たちの街』（1985）でも圧倒的な存在感を示すこととなった。町の娘テレナ役のマリン・カンターは鼻っ柱は強いがどこか影のある少女を好演。その後ロバート・ダウニー・Sr. 監督のコメディ作品『ストレンジ・ピープル』（1990）への出演を最後に俳優を引退。本作は数少ない出演作の一つとなった。

『青春がいっぱい』

The Trouble with Angels

女性映画監督の先駆け
アイダ・ルピノの監督遺作！

監督：アイダ・ルピノ

孤児のメアリー・クランシー（ヘイリー・ミルズ）は、裕福な叔父のジョージ（ケント・スミス）によって、カトリックの全寮制女子校であるセント・フランシス・アカデミーに送られることになる。メアリーは入学初日に出会ったレイチェル・デバリー（ジューン・ハーディング）とすぐに意気投合し、行動を共にするようになる。アカデミーでの厳格な生活に反発する２人はいたずら心からトラブルばかり起こし、修道女たちを振り回す。修道院長（ロザリンド・ラッセル）から叱られてばかりの毎日であったが、メアリーは次第に修道女たちの献身的な姿に心を動かされていく。

作品解説 1930年代にイリノイ州シカゴ近郊のカトリック校で過ごした自身の高校時代を描いた、ジェーン・トラヒーの1962年のベストセラー『Life with Mother Superior』が原作となっている。入学当初は修道女たちがなぜその道を選んだのか理解ができないメアリーであったが、彼女たちの愛や寛大さ、献身の心に触れ次第に感化されていく様子が描かれる。ヘイリー・ミルズは、豊かな感情表現で思春期の微妙な心の変化を瑞々しく演じた。アカデミー賞子役賞を受賞するなど、それまでは子役スターとしてディズニー映画への出演が多かったヘイリー・ミルズにとって、本作はコメディ俳優としての出発点となった。ロザリンド・ラッセルは、ゴールデングローブ賞を５回受賞のほか、トニー賞を受賞するなど映画と舞台の両方で活躍した俳優。自身もカトリック学校に通った経験をもち、厳しくも愛のある修道院長を好演している。

『ガールフレンド』

Girlfriends

伝説の都会派女性映画！

監督：クローディア・ウェイル

駆け出しのカメラマンであるスーザン・ワインブラット（メラニー・メイロン）は、ポートレートやウェディング写真の仕事で生計を立てながら、プロとしての道を模索している。親友でルームメイトのアン・マンロー（アニタ・スキナー）も同じく夢を追い、詩人を志している。スーザンの仕事が上手くいき始めた矢先、アンは恋人マーティンとの結婚を決心したことを打ち明ける。スーザンは祝福の言葉をかけるものの、動揺を隠せない。一人暮らしがスタートし、寂しさを紛らわせるかのように、これまで以上に恋や仕事に打ち込むスーザンだが……。

作品解説 ヴィッキー・ポロンとの共同脚本は、ウェイル監督自身の体験に基づくものである。自身もカメラマンとして活動していた時期があるなど、主人公スーザンと重なる点も多い。夢を追いかけながらも、周りの同年代女性の成功や結婚が気になってしまう、若い女性の揺らぐ心の内をリアルに描いている。不完全で親近感のある主人公に、共感を覚える女性は少なくないだろう。
資金不足のために完成までに３年の月日を要するなど製作には困難が伴ったが、公開後は女性の友情や大都会で成功を夢見る若い女性をテーマとした作品の先駆けとして高い評価を得る。本作の影響は、その後の女性製作者たちの間に広く波及し、特にグレタ・ガーウィグやレナ・ダナムの作品には顕著に見られるとされる。1978年、本作はロカルノ国際映画祭で銅豹賞、トロント国際映画祭で観客賞を受賞した。1979年、ダヴィッド・ディ・ドナテッロ賞でダヴィッド特別賞を受賞。同年、ゴールデン・グローブ賞と英国アカデミー賞にもノミネートされた。

『天使の復讐』

Ms.45

女性リベンジムービーの
カルト作にして最高傑作！

監督：アベル・フェラーラ

ニューヨークのドレスメーカーに務める内気な女性ターナ（ゾー・タマリス）は、声を発することができない障がいを抱えながら、日々真面目に働いていた。ある日の帰宅途中、仮面をつけた男に路地裏に連れ込まれ、強姦される。心身ともに傷つき、やっとの思いで帰宅すると、部屋で待ち伏せていた別の強盗にも襲われる。恐怖のなか、とっさの反撃で形勢逆転し、ついには殺してしまう。強盗が持っていた拳銃を手にしたターナは、夜な夜な街をさまよい、復讐を果たすかのように次々と男たちを殺していく。

作品解説 性犯罪の被害者となった主人公が男への復讐を果たしていくスリラー映画。当初は自分を守るために仕方なく殺人を犯す主人公であったが、徐々に殺しへの強い意志をもって街に繰り出すようになる。その姿は男を殺すという使命を背負った女戦士を思わせる。内面の変化を表すように、気弱で化粧っ気のなかった主人公が、バッチリと化粧をして刺激的な服装に身を包んだ姿は、まるで別人のように美しくもある。また、自らの正義を果たすために殺人をも犯してしまうという人物像は、本作がインスパイアを受けているとされる『狼よさらば』（1974）、『タクシードライバー』(1976)に共通している。エキゾチックな顔立ちで独特な存在感を示すゾー・タマリスは、若干17歳にして本作がデビュー作である。彼女はフェラーラ監督の実生活のパートナーでもあり、俳優のほかに音楽家・政治活動家としても活動していたが、その後深刻な薬物中毒となり、37歳という若さでこの世を去った。

作品情報テキスト：はせがわなな

『ラブレス』劇場初公開

2023.12.8 | fri ── 12.14 | thu

監督：キャスリン・ビグロー

『ハート・ロッカー』（2008）で女性初のアカデミー賞監督賞を受賞。サンフランシスコ・アート・インスティテュートを卒業し当初は画家として活動していた。その後コロンビア大学芸術大学院で映画理論と批評を学び、在学中に製作した初監督作の短編映画『The Set-Up』（1978）は、当時教授であったミロス・フォアマンから高い評価を得た。現代アーティストと映画監督の二つの顔をもっていたビグロー監督にとって、本作『ラブレス』はアートの世界と映画製作のギャップを埋めるつなぎのようなものだったと後のインタビューで語っている。また、この頃にはGAPの広告モデルも務めた。『K-19』（2002）以降は自作品の制作も兼任し、J・C・チャンダー監督『トリプル・フロンティア』（2019）では製作総指揮として活躍している。プライベートではジェームズ・キャメロンと1989年に結婚するが、1991年に離婚。

監督：モンティ・モンゴメリー

アメリカの映画監督・プロデューサー・俳優・脚本家。デヴィッド・リンチ監督『ワイルド・アット・ハート』（1990）、ジェーン・カンピオン監督の『ある貴婦人の肖像』（1996）のプロデューサーとして知られる。TVシリーズ『ツイン・ピークス』のパイロット版ではプロデューサーを務めたほか、『マルホランド・ドライブ』（2001）に俳優として出演した。

1981年｜アメリカ｜カラー｜82分
監督：キャスリン・ビグロー、モンティ・モンゴメリー／脚本：キャスリン・ビグロー、モンティ・モンゴメリー／撮影：ドイル・スミス
出演：ウィレム・デフォー、J・ドン・ファーガソン、マリン・カンター、ティナ・ロッキー

『青春がいっぱい』

2024.1.5 | fri ── 1.11 | thu

監督：アイダ・ルピノ

イギリス・ロンドン出身で、アメリカで俳優・監督として活躍した。母は俳優、父は大衆演劇のスターというショービジネス一家に生まれる。14歳のとき母親に連れられ参加したオーディションに合格し、本格的に俳優業をスタート。翌年アメリカに移住してキャリアを積み、ハンフリー・ボガートやロナルド・コールマンなど当時の大物を相手に数々の作品に出演した。1947年にフリーランスになった後は監督業に軸足を移し、多くのTVシリーズと映画で監督を務め、女性として史上二人目の監督組合入りを果たした。『ヒッチ・ハイカー』（1953）は初めての女性監督によるフィルム・ノワール作品となった。

1966年｜アメリカ｜カラー｜112分
監督：アイダ・ルピノ／脚本：ブランチ・ハナリス／原作：ジェーン・トレイヒー／撮影：ライオネル・リンドン
出演：ヘイリー・ミルズ、ジューン・ハーディング、ロザリンド・ラッセル、ビニー・バーンズ

『ガールフレンド』

2024.2月上映予定

監督：クローディア・ウェイル

ニューヨーク出身の監督・俳優。大学卒業後、フリーランスのカメラマンとしての仕事や、数多くのドキュメンタリーの製作を手がけた。シャーリー・マクレーンと共同で撮影・監督した中国を舞台としたドキュメンタリー作品はアカデミー賞にノミネートされた。本作『ガールフレンド』では、トロント国際映画祭の観客賞をはじめ、数々の国際映画祭で高い評価を受ける。しかし長編映画の監督としては、次作の『イッツ・マイ・ターン』(1980)が現時点での最後の作品となった。近年ではレナ・ダナム製作のTVシリーズ『GIRLS／ガールズ』のエピソードで監督を務めたほか、アメリカ有数の大学で、映画、テレビ、演劇のための演出の教鞭をとっている。

1978年｜アメリカ｜カラー｜88分
監督：クローディア・ウェイル／脚本：ヴィッキー・ポロン／撮影：フレッド・マーフィ
出演：メラニー・メイロン、アニタ・スキナー、イーライ・ウォラック、クリストファー・ゲスト

『天使の復讐』

2024.3月上映予定

監督：アベル・フェラーラ

ニューヨーク・ブロンクス出身でカトリック教徒として育ったという背景は、彼の多くの作品に影響を与えている。カルト的な人気を得るきっかけとなったのは、長編２作目の『ドリラー・キラー』（1979）で、主人公の電動ドリルで殺人を重ねる芸術家を監督自身が演じた。その後の代表的な作品としては、本作をはじめとし、『キング・オブ・ニューヨーク』（1990）、『バッド・ルーテナント／刑事とドラッグとキリスト』（1992）、『フューネラル』（1996）といった、都市部にはびこる暴力や犯罪を描く作品がある。本作の主人公を演じたゾー・タマリスがフェラーラ監督とともに共同脚本を務め、ニューヨークの汚職警官を描いた『バッド・ルーテナント／刑事とドラッグとキリスト』は、ショッキングな内容から賛否が分かれる問題作となった。

1981年｜アメリカ｜カラー｜80分
監督：アベル・フェラーラ／脚本：ニコラス・セント・ジョン／撮影：ジェームズ・モメル
出演：ゾー・タマリス、ピーター・イェーレン、エディッタ・シャーマン、ヴィンセント・グルッピ

部費（鑑賞料金）1,500円均一

会員、サービスデーなど各種割引料金適応外。招待券使用不可。
主催：京都シネマ+グッチーズ・フリースクール

京都シネマ
KYOTO CINEMA
京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋620
COCON KARASUMA 3F
www.kyotocinema.jp

きょうとシネマクラブ
公式SNSも更新中
@kyoto_cinema_c